

## 会 議 録

会議の名称	平成25年度 第6回豊中市図書館協議会		
開催日時	平成26年(2014年)1月28日(火)18時30分~20時30分		
開催場所	豊中市立岡町図書館 集会室	公開の可否	可・不可・一部不可
事務局	岡町図書館	傍聴者数	9人
公開しなかった理由			
出席者	委員	松田 美和子 杉浦 公男 鶴川 まき 橘高 美那子 舟岡 直子 大野 俊介 森山 みさと 岸本 岳文 渥美 公秀 村上 泰子	
	事務局	小川参事 堀野岡町図書館長 大原野畑図書館長 北風千里図書館長 木村庄内 図書館長 江口岡町図書館副主幹 藤原岡町図書館副主幹 中田岡町図書館副館 長 須藤蛭池図書館長 松井岡町図書館副主幹 西口岡町図書館主査 上杉岡町 図書館主査	
	その他		
議題	1 図書館の施設配置について 3 その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

## 平成25年度（2013年度）図書館協議会

日時：平成26年（2014年）1月28日（火）18時30分～20時30分

場所：豊中市立岡町図書館 3階集会室

出席者：（敬称略）

委員 松田 杉浦 鶴川 橘高 舟岡 大野 森山 岸本 渥美 村上  
事務局 小川 堀野 大原 北風 木村 須藤 江口 藤原 中田 西口 上杉 松井

### 開会

#### 資料確認

#### ●委員長

次第に沿って議事を進めたい。図書館協議会の運営方法について、委員の皆様にご了承いただきたい。図書館協議会の運営方法として、豊中市では原則的に会議を公開しており、今日も9名の方が傍聴に来ておられる。傍聴については10人を定員にしているが、ご希望の方が定員を超えた場合の傍聴者の人数については、その時の状況を見ながら私の方で判断させていただくということによろしいか。なお傍聴の方にはアンケートをお願いしており、協議会を傍聴されてのご意見等をお伺いし、特に皆様にもお伝えすべき内容についてはご報告する。前回の会議録については、事前に送付させていただいたものについて、とくに皆さんから修正についてご意見はなかった。公開の際には、お手元の記録と同じように概要という形にし、発言者については個人名を掲載せず、委員と表記することをご了承いただきたい。

それでは本日の議題に入りたい。

議題1 図書館の施設配置について、事務局から資料18 答申案について説明をどうぞ。

#### ●事務局

事前にお配りした資料18の1月15日骨子案をもとに、起草委員のご意見をふまえて再構成した資料19の1月28日骨子案と答申案を、本日当日資料としてお配りしている。起草委員の皆様にはお忙しいなかご意見をいただきありがとうございました。本日の答申案の資料20は、皆様のご意見をまとめた1月15日の骨子案について、起草委員のなかで意見交換をしていただき、各項目についていくつかの視点から、施設配置とからめてどういうことが言えるのか検討を進めていただいた結果、全体の構成の組み替えを行い文章化した。15日更新案のなかで抽象的なものを具体化したり、具体的な箇所の表現を変えるなど、全体的に変更されているが、あくまでも出発点は、この図書館協議会での皆様のご意見である。

起草委員は、岸本委員長、渥美委員長代行、村上委員、鶴川委員、杉浦委員で、その方々のご意見をいただいて、本日の答申案になっている。ご検討をよろしく申し上げます。

#### ●委員長

資料19と20を合わせて見ていただきながら、若干説明をしていきたいと思う。先ほど、事務局からの説明にもあったように、まず15日にそれまで協議会の中で出た意見をグルーピングしていただい

た。それを起草委員の皆様にお送りし、ご意見をお伺いしてまとめを進めていこうという形になった。

まず、課題の設定ということでは、基本的に諮問されているのは施設の配置ということである。施設の配置というのは、単に個々の施設ということにとらえるのではなくて、基本的には一つ二つの施設を取り上げる結果になったとしても、これは豊中の図書館全体のサービスの有り様に関わってくるものだろうというふうに考えている。そういった意味で、いわゆる図書館の全域サービス、図書館の機能を市内のどこに居ても、十分に誰もが利用・活用できる、それを豊中としてどのように創っていくのか、ということを考えれば、これは一つの施設を取り上げても、全体の図書館の機能をもう一度見直した上で、豊中の図書館全体を再構築していくということになるのではないかと考えた。全域サービスを豊中においてどのように創っていくか、どのように再構築していくかがこの施設配置検討のひとつの課題だろうと考えて取り組んできた。あわせて、施設配置と言う時の「施設」とは、単にハードウェア、建物としての「施設」なのだろうかということも、もう一度確認したいと思う。単にハードウェアとしての「施設」として図書館の働きが成り立っているのだろうか、ということも考えた時、やはりハードウェアがあって、そこに様々な地域の人たちとの連携や協働といったものが生まれてきている。すると、個々の施設を考えるということは、建物、ハードウェアとしての施設を考えることにとどまらず、おそらくその図書館がその地域で生み出してきた、地域の方々との様々な連携協働、そうした地域との関係性の総体として、図書館という施設をとらえる必要があるのではないだろうか。そのように施設配置を考えるときの前提を置こうととらえた。これが「はじめに」のところでも課題の設定を整理しているところだ。

まず、豊中の図書館全体をとらえて、もう一度それを考え直していく。それから、単にハードウェアとしての建物としてだけで図書館を捉えた場合、決して図書館の働きを把握することにはなっていないだろうということ。地域の人たちとの関係性といったものをふまえた上で、これを把握していくことが図書館の施設配置を考える上での大きな前提になるだろう。そうしたことの結果として、図書館というものはどういったことができるのだろうかということも、「はじめに」の後半で○印をつけて、図書館という「場」の働きとして整理した。若干同じ事柄を違う側面から見ている部分もあるが、それぞれ起草委員の方々が様々に図書館について期待されていることを盛り込んでいる。これが「はじめに」のところだ。

豊中における図書館の全域サービスをどのようにとらえていけばいいのかということも、2の「豊中市立図書館の全域サービスのあり方」としてまとめている。豊中市の中に、誰もが気軽に行ける場所に十分に施設が設置できれば良いが、それが難しい場合、利用のしにくいところには広域的な連携もあわせて今後は考えていくというようなことが必要だろうということ。それから、それぞれの地域の特徴に応じたサービスのあり方も考えていくべきことなのではないかということ。また、これからの全域サービスというものを、豊中市を含めたもう少し広域的な図書館連携という視点から捉えることが必要だとの指摘もしている。それから、基本的にそうしたことを通して、図書館のサービスを高めていく、クオリティを高めていくという意味では、やはりそこで仕事をしている職員による日常的な議論を通じて、地域をきちんとみつめていく視点を持つことが非常に求められているという指摘もここで行っている。そのような、これからの全域サービスを創り出すために、ではどういった観点から見て言ったらいいかということで、ひとつは、3の「利用の状況から」見ていこうということ。もうひとつは先ほど言ったように、図書館というものが地域の方々との関係の中で成り立っているということから、地域あるいは市民の方々との協働ということから見ていこうということ。これが3ページの4の「地域・市民との協

働の視点から」である。それから特に、豊中では学校図書館に様々な力を入れていることから、学校図書館と公共図書館の連携といった視点からも一度確認をしておく必要があるということで、4ページの5、「公共図書館と学校図書館の連携の視点から」という見方を入れている。もうひとつ、これはハードウェアとしての施設そのもの、施設の複合化・多機能化といった流れが一方ではある。それから、地域の中のハードウェアの施設として図書館に期待される様々な役割もあるだろうと、そうした視点から施設配置を考えること、これは5ページの6で、「施設の複合化・多機能化、施設に期待される役割の視点から」としている。これは公立図書館として行っていくわけなので、その事業をいかに効率的に行っていくかということも当然求められる視点である。これを6ページの7「事業の効率的展開の視点から」として挙げる。そうしたことを通じて、これまでの図書館協議会の中でもいくつか指摘されたが、実際にそうしたかたちで図書館がさまざまなサービスを展開していても、なかなか住民の方々にそれがきちんと伝わっていないということ。PRという言い方をされたこともあったが、図書館の働きをいかに伝えて、言わば図書館への支持を生み出していくかということも、非常に重要なポイントだということで、7ページの8「図書館の働きをいかに伝えるか」に書いている。そして最後の9「おわりに」となっている。

今申し上げた、それぞれの視点について、もう少し触れておきたいと思う。まず、3の「利用状況から」。それぞれの図書館の利用状況も含めて、現在の豊中の図書館の活動については、これまでの協議会の中でも、事務局から様々な説明を受けてきたところだ。図書館サービスのこれからの一つのひろがりとして、図書館の利用における登録率を掲げて、その目標として今後10年間で、10代後半から30代にかけての若年層の利用者をいかに増やしていくかということと、もう一つはシニア世代、いわゆるリタイア世代へのサービスを重点にしていこうという。そのことによって現在の登録率より、さらに20%登録率を上げていこうというふうな目標を掲げた。そのように、ターゲットとしての利用者層というものを視野に入れているという中で、施設配置を考えていくということに合わせて考えると、そうしたターゲットと施設配置の関係ということも、きちんと考えておく必要もあると考える。たとえば、若年層の10代の若者たち、あるいは20代30代のビジネスマンの方々といったところ、ここでターゲットとしてとらえられている方々と思うが、こうした方々にとって魅力ある図書館を創っていくには、ある程度利用圏域を広くとらえることも可能なのではないかというふうに思う。行動範囲が広いということを考えれば、豊中の図書館すべてがこうしたターゲットに絞ったサービスに力を入れるということではなくて、いくつかの図書館がそれに力を入れるというようなかたちで、一定の機能分担的なことも、施設配置ということからは考えられるのではないかと思う。いくつかの図書館に、そうしたプラスアルファ的な要素を備える。以前、図書館サービスを二階建てに例えたが、二階の部分にそうした役割があてはまるだろう。それは図書館全体としては20代の人たちをターゲットとしているから、全ての図書館がということではなくて、いくつか、このようなターゲットとした人たちにとって利用しやすい図書館というものを置いて、そこでそのようなサービスに一定の力を割いていくというあり方も必要なのではないか。一方で、シニアのリタイア世代を考えると、施設配置の視点から考えると、若い人たちのように行動半径が広いわけではない。あわせて、地域でコミュニティのなかで様々な活動をする機会が増えてくる傾向がある。すると、どうしてもそのような意味で、行動半径は狭いだけでなく、様々な活動する基盤が地域に軸足を置いた形になってくる。そうすると、そういう世代の人たちと図書館というものを考える時には、やはりそれぞれの暮らしにもっとも近いところ、身近なところにあ

る図書館を、誰もが同じように使えるようにしておかなければならない。したがって、シニア・リタイア世代をターゲットとして図書館サービスを考える時には、やはりそれぞれの図書館が、きちんとそのようなサービスを展開していかなければならないし、地域に軸足をおいて活動している人たちが本当に利用できるように施設が配置されている必要があるだろうと考える。そうすると、利用状況から、また、豊中の図書館がこれから一定のターゲットを考えながらサービスを展開していこうという場合に、施設配置という意味では、少し異なった利用の圏域というものを認識したうえで、それぞれのターゲットに則したサービスをできる拠点をどのように整備していくか、ということが求められる視点かと考えて、この「利用状況から」としている。

そのようにそれぞれの図書館を考えると、これは単に一つ二つ対象となる図書館を考えてどうするか、ということだけではなくて、始めにも言ったように、豊中の図書館の全域サービス全体をどのように展開していくかというなかで、もう一度全部の図書館を捉えなおして、機能を考えていくということにもつながっていくのではないかというふうに思っている。

それから、4番目に掲げたのが、「地域・市民との協働の視点から」ということである。資料2の「豊中市立図書館 連携と協働ネットワーク図」として資料も付けているが、私の目から見ると、豊中の図書館は他の自治体の図書館と比べると、地域との非常に強いつながりというものを生み出しながら、実際の図書館サービスを展開してきたところだと感じている。これは、他の自治体に対しても豊中の図書館が持っている非常に大きな強みであり特徴であると思う。ぜひ、これをさらに充実したものにしていくことが、それぞれの施設を考える時の一番の基本になるだろうと思う。先ほど言ったように、施設をつくるということは、決してハードウェアとしての建物を造るということだけではなくて、その建物を核として、地域の方々との様々なつながりを創っていくことだというふうに思う。すると、ある施設を無くすということは、そうした地域と図書館とのつながりによって生まれた様々な力を、一方では失っていくことにもなりかねない。これを創り直していくということは、建物だけではなくて、こうした地域の人たちとのつながりをどのように再生していくかということも含めて、施設の統廃合といったことは考えられるべきことだろう。そうしたことをきちんとふまえたうえで、是非お願いしたいということで、ここに「地域・市民との協働の視点から」という項目を入れさせていただいた。

少し前にアメリカのある図書館のパンフレットを見ていたら、地域資料という時に、今までなら図書館というのは地域の人たちが世界に目を開いていく場所だというような言い方をしていた。図書館は世界に開かれた窓である、みたいな言い方をしていたのが、その図書館のパンフレットでは、今はそうじゃないのだという。図書館は、地域を世界に開いていく窓だという言い方をしているわけですね。これはやはり図書館の持っている様々な地域の力を、図書館を通して地域外に発信していく、そうしたうえでも非常に大きな意味を持っているということだ。今までは図書館というのは、資料や情報を、図書館を通じて手に入れる、そうしたことによって地域の人たちが世界の様々なことに触れていく場所であったが、今図書館というのは、そうした役割も当然大切なわけだが、もう一方では地域の人のさまざまな活動、地域の人たちの様々な魅力を、図書館を通じて世界に発信していく場所になってきている。図書館が発信している情報というのは、偏らない非常に客観的な情報を発信しているということに対する信頼性でもあると思う。そうした意味でも、図書館というのは地域とのつながりをつくっていく、これは決してその地域の中だけで完結するのではなく、それが地域の様々な魅力を豊中から世界に発信していくことにつながるのだ、というようなことも含めて、こうした地域・市民との協働というのを大切に

ていただけたら、という思いでここに記述している。

それから5番目、「公共図書館と学校図書館の連携の視点から」では、豊中の場合は非常に学校図書館に力を入れてきた。これも非常に評価されているところだ。ただ、学校図書館と公共図書館との様々な機能の違いをきちんとおさえられないままに、様々なところで、こうした連携がずれたかたちになっていくのを目にしてきた。そうした意味では、やはりまず、学校図書館は何をすところか、公共図書館は何をすところか、それをちゃんとふまえたうえで、それぞれの基本をベースにした連携、これをぜひ強化していってもらいたいと思う。学校図書館というのは、それぞれの学校において、まず教育課程を充実させていくということが一番に求められている場所だ。公共図書館というのは、学校における学校図書館が学校の教育課程を充実させることに対して、どこまでサポートしていけるのかという関係にあるのだろうと思う。学校図書館というのは、決してそうした意味で単なる読書施設ではない。そうした学校図書館本来の、学校の教育課程に資する役割が十全に果たしていけるように、これは学校図書館だけでできる話ではない。その役割を十全に果たしていけるように公共図書館がいかに学校図書館と関わっていけるか、このことは非常に大切なことであろうと思っている。そうしたことの結果として、図書館というものが非常に生き生きと使われる町が生み出されてくるのだろうと思う。そうした意味で、まず何を大切にしてほしいのか。そのところがずれてしまうと、お互いの機能を損なうことになりかねないという危惧も含めて、学校図書館を地域に開放していけば、それが公共図書館の役割になるなんてことには決してならないのだということも、もう一度確認しておきたい。ということで、ここにそうした基本的な事柄を書かせていただく。是非そうしたかたちで、よりよい連携を生み出していただければありがたいと思っている。それからあと、「施設の複合化・多機能化、施設に期待される役割の視点から」ということで、いくつかこれまでいただいたご意見をふまえて記述した。そうした意味で、複合化多機能化のなかで、図書館の働きがさらに拡大していったひとつの事例として、「千里文化センター、千里コラボ」の例をあげておいた。施設の配置計画ということで、前回図書館協議会の中で、南部コラボについての動きというのでも聞いた。そうした意味で、庄内地区の図書館・庄内幸町図書館と、南部コラボの計画というものが、どのようなかたちですすめれば図書館にとって、ひいては結果として地域の住民の方にとって幸せな結果を生み出すのだろうかということも含めて、もしそれが、デメリットよりメリットの方がより大きいということであれば、一定図書館としても一歩前に進めていくことも必要ではないかというふうに、いくつかの事柄を挙げさせていただいた。当然、これからの図書館の働きというのは、単に図書館の中で完結するものではない。図書館以外の様々な機関との連携、こういったものについても、ぜひ進めていってほしい。それが先ほど言いつたように、図書館を通すことによって、非常に客観性のあるものとして、これを豊中から外に発信していく力になっていくだろうというふうに思う。それから最後の方で、施設は決してハードウェアだけではないと言ったが、やはりハードウェアとしての非常に重要な役割がある。これは図書館ということだけではなく、地域の中の公共施設として求められる様々な役割がある。そうした意味では、たとえば地域における避難所となる公共施設としての図書館といったことも、当然そこで念頭に置いたうえで、様々な計画が求められることになるのだとお願ひしておきたい。

7番目ですが、当然こういった事柄については、どんどん予算をつけて進めようという話にはならない。やはり公立図書館として行う以上は、できるだけ安いコストで良いサービスを提供する努力。良いサービスというのは、住民の方々にとってクオリティの高さを実感できるサービスのことだと思うが、

できるだけそれを低廉なコストで行う。このための努力というのは、当然のことながら図書館側に求められる。是非そうした意味では、質の高いサービスをつくっていく努力をすると同時に、それを少しでも効率的に進めていく工夫、こういったことも十分求めていきたい。ただ、安かろう悪かろうの話ではない。あくまでも目指すのは安くあげるということではなくて、質の高いサービス、住民が満足できるサービスを提供すること。これがまず目指すべきことだ。ただ、そのためには当然これを効率的に執行していくさまざまな努力や工夫があって、はじめてそれが認められることなのだというふうに思う。そうした意味で、施設の配置ということを考えるときにも、事業を効率的に遂行していくということをきちんと押さえた上でお願いしたいと、7番目に挙げておいた。

それからこれもこれまでの図書館協議会の答申等でもいくつかあげられていたことだが、図書館のことをよく御存じの方々は、図書館を一定評価していただいて、図書館を支持していただいているけれど、なかなかそれが広がっていかないというふうなこともあった。図書館のPR不足ということも言われていたが、図書館の仕事というのはPRして納得してもらえるものでもないとは思っている。町のラーメン屋さんみたいなところがあり、一回食べてみてうまかったなって言ってもらえないと、なかなか良かったなということを実感してもらえないものではない。いかにあそこの豚骨スープがうまかったかと力説しても、食べたことのない人にはなかなか分からない。やはり口にしておいしかったなと思ってもらわないと、図書館の評価にはなっていない。だけど、みんなに食べていただいたということにはなかなかないし、実際食べたものを本当に味わっていただくためには、図書館側から様々な自分達の仕事・働きについて伝えていく努力・工夫が求められるのだろうと思う。これは市民の皆さんの税金を使ってやっている仕事なので、自分たちがやった仕事はどういった成果をあげて、それがどういった意味を持っているのかということ、きちんとご理解していただいたうえで、支援していただき支持していただく、というふうなことが必要なのだと思う。そうした工夫は、これまでもやってきたかと思うが、やはり本当に図書館を利用したことのない人にも、一度図書館に足を運んでみようかと思っただけのようなメッセージ、これを伝える工夫と努力を是非さらにやっていただきたいと思う。それは結果として、図書館を自分たちの町の誇りにしてもらおうことにつながっていくと思う。「自分達の町にこんな図書館があるんだよ」と、そこに住んでいる人たちの一つの誇りになる、そんな図書館にぜひしたい。そのためには一定、自分たちの働きをどう伝えるかということにも目を配っていただいたらと思う。そうした意味で、基本的に施設配置ということについては、最初に言ったように、単なるハードウェアとしての施設配置ということではなくて、それぞれの図書館がこれまで地域の中でつくりあげてきた様々な地域の方々とのつながり、こうしたものをより高めていくための視点。それは図書館と地域の人たちが、生み出してきた、つくりあげてきた様々な力。これをより強めていくということを元にして、施設配置というものを考えていただきたい。施設を無くすというのは、ある意味で建物がなくなるだけではなく、そこに集まってきた地域の人たちの力を失うことにもなりかねない。もう一度をそれをさらに強いものに創りあげていく、築きあげ直していく、そうしたことのための施設配置という視点でぜひ考えていただきたい。そういう意味では、南部コラボという一つの方向というのは、これまで作り上げてきた様々なもの、そうした地域の方々とのつながり、これをさらにより高めていくものになるのであるとすれば、そうした方向性を積極的に検討していいのではないかと思う。そうしたことを通じて、ぜひ豊中が標榜されている「学びのまちづくり」の豊中の図書館というものをさらに追及して行っていただきたい。そしてそれが、ひいては、豊中市が標榜されている「学びのまちづくり」というのが、市

民の方々が誇れる「学びのまち」になっていくだろうと思う。けっして豊中市が「学びのまちづくり」を標榜するということが大切なのではなくて、おそらくそうしたことを受けて、様々に図書館を使いながら、地域の人たち、市民の方々が、豊中は「学びのまち」なのだというふうに誇りに思えるようなものにしていく。図書館というのは、おそらくそうしたことの基本になる施設であると、私は思っている。そうしたことを期待して、答申の案とさせていただきたい。

これを元にして、皆様からのご質問ご意見をいただきたい。委員の皆様方、発言の際には挙手をさせていただき、発言をお願いしたい。

#### ●委員

一つかがいたいことは、6番目の「施設の複合化・多機能化、施設に期待される役割の視点から」の欄で、6ページの上から9行目あたり、「公民文館の文化部などと連携できる地域があるかもしれない」というところがあるが、公民分館の文化部に限定した意味合いを教えていただければと思う。特に文化部ということに意味があるのだろうか。

#### ●委員長

特にここで限定する必要はないかと思う。具体的なイメージも含めて、ここにこうして挙げるのはかえって良くないということであれば、修正した方がいいかと思う。

#### ●委員

私は公民分館の文化部に所属しているので、限定する意味の強さを感じてしまった。

#### ●委員長

なるべく具体的に例を挙げて分かりやすくと思ったのだったが、当然相手のあることなので、ここには少しまた考えたい。

#### ●委員

起草委員の一人として、既に意見を言わせていただいたので感想になるが、一つだけ述べたい。図書館の働きと言うか役割として、現在いわゆるリアルな世界での図書館という部分と、それからネットを通じたバーチャルな世界における図書館の役割というのが両方あって、それらは相互に非常に関係しあいながらサービスの提供が行われていると思うが、今回の答申に関しては、施設配置という答申の内容であったので、バーチャルな世界における図書館の役割や働きというところは少し背景の方に下げて、リアルな世界における図書館の役割ということ、特に人とのつながりということを中心にまとめてというように、私自身は理解をしているところだ。その中で強調されているのは、施設が単に建物やそこに人が集まるというだけではなくて、そこにやはりなんらかの繋がりが出てくる、コミュニティの中の図書館としての役割を果たすということが、非常に重要なのだということ。これが一番この答申の中で言いたい事ではないかと思う。その事をふまえた上で、図書館に何ができるのかということがいくつかの視点からまとめられた。その中で、私がとくにこれは触れていただいて非常に良かったなと思っているのが、項目で言うと4の項目「地域・市民との協働の視点から」という部分の最後の方で、情報を



発信している部署については、図書館だけではなくていろいろな市内の様々な場所で、市民に役立ついろいろな情報が提供されているが、豊中市全域でバラバラに存在している情報を、各館が協力して一元化をしていくということは図書館ならではの営みだという部分なのだが、何か市内の情報を得ようとしたときに、どこにアクセスしていいのかがまったく分からないということがよくある。そういった意味で、図書館と言う所を窓口にして、その市内の情報というのが非常に分かりやすくスムーズに提供されるというようなことは、切に望むところで、これは書いていただいて良かったと思う。

#### ●委員

施設配置ということでは、まず子ども・学校との連携、地域との連携、それからもうひとつ重要なのが、図書館としての基本的な機能、いろんな課題を抱えている人が問題解決できるように資料・情報を提供するという、そのことが一番基本だと言う。施設配置ということでは、「南部コラボ構想」について、12月の豊中市広報に市議会での議論が載っていた。その議論を読んでみても、まだ基本構想、基本理念の段階からは出ていないなという印象を持った。その構想の中に、ここに書かれていることを反映して、やはり図書館をなんとか位置づけて組み込んでいくのが、図書館としても一番良いのではないかということが書かれているので、私はこの点について賛成である。

#### ●委員長

ありがとうございます。委員が今言われた図書館の本当に基本的なところについては、ここではあまり触れていない。ただ個々の図書館の現在の状況とか課題といったことは、本文の中で触れると煩雑になってしまいそうなので、資料3として一覧表にまとめている。前に、スライドでも紹介されたそれぞれの図書館が、どういった活動をしているのかということと、現在の利用状況がどういったものであり、どのような特徴があるかということと、それぞれの図書館がこれからの展望の中で、どういったものを目指そうとしているのかということと、一覧表の形でまとめた。これによって、先ほど委員が言われた部分についても、概観できるように資料3として付けた。ある意味で基本的な部分、これは当然これまで豊中の図書館として積み上げてきたことであり、実際に実績も上げているということで、あまり今回の本文の中では触れなかったが、一応それぞれの図書館、各館の状況を一覧にまとめる中で、ある程度概観できる形をとらせていただいている。

#### ●委員

私も起草委員の一人だったが、資料2の「豊中市立図書館 連携と協働ネットワーク図」については、前にも見たことがあるが、いろいろな活動団体や行政の部署との協働という図だが、見た時の印象として、固定されたもののように見えてくるところを懸念する。先ほど話題になった連携先の可能性についての質問とも関わるが、これで決まりなのだというものではないことが分かるように工夫がほしい。例えば紙芝居に関わる団体は、数は多くはなくてもはいろんなところがあると思う。他にも広がりを見せるような表し方で書く方がいいのではないかと思う。千里コラボのところも、ネイチャークラブで終わっているという表記になっているが、やはりもっといろいろ今後の可能性もあるわけなので、配慮が少し足りないのかなというふうに思う。それが一つ感想なのだが、起草委員の一人として感想をちょっと述べさせていただくと、図書館の職員の方々も含め、図書館が主体になって地域でも市民をサポートす

る、課題解決の主体になるっていうか、そういう感覚がちょっと強すぎる感じがした。街に出かけると言ったときに、そういう課題をみつけて自分達が解決、あるいはサポートする、時には主体にならなくてはいけないけれども、いつも主体でなくても良くて、それをやっている人をサポートする、あるいは連携する、協働するという図書館の役割としての関わり方というのを、もう少し意識した方がいいんじゃないかなということが、起草委員として感じた事だが、そういう風な視点で見ると、街に出かけるときの視点が、自分達が何かを見つけてするとしたら、すごく大変なことだと思う。でも街には、もうすでに豊かな市民活動がいろいろあるわけで、そこで図書館としてなにができるかっていう辺りを、もうちょっとやわらかく考えていかないと、ちょっとしんどくなるのではないかなと思う。街に出かける時の、出かけ方とでもいうようなところ、そのあたりをもう少しやわらかく柔軟にとらえて、すでにある市民や市民活動団体、あるいは企業との連携というように、もうすでに始まっている事業もあれば、これから起こる事業もある。そこで図書館に一体何ができるだろうという、それこそサポートのサポートかも分からない、それぐらいの幅をもって考えていった方がいいのではないかなと感じた。そういう意味で、この市民との協働のこの項目の後段の部分は書かれて良かったと思う。

#### ●委員長

「連携と協働ネットワーク図」が、下手をするとオープンじゃなくてクローズなものに見えてしまう問題なので、ちょっとその辺は工夫したほうがいいかも分かりませんね。今委員が言われたように、この間も図書館と地域の人達ということで、図書館員が街に出て行くっていうことを話し合ったが、よく考えてみると、私も、図書館員が図書館員のまま街に出て行っても、あんまり良くないなという気がしている。ぜひ街にもっと遊びに出てほしいなと思う。多分図書館員という肩書なしで、街で遊んでいる時に、「ああ、図書館の人だったの。それならね…」というようなことで話が出て来ると思う。先に「図書館の人」というよりも、ほんとにもっともって職員の方々、街で遊んで、遊んだ時に「図書館の人やったら、こんなことはどう」と言うようなことが、関係がひろがっていくきっかけになるかなと思う。あまりまじめに地域に出て行くということをとらえなくてもいいのではないかな。もっともって遊びの延長みたいな気持ちで街に出て行って、様々な地域の人達と繋がりを作っていくというのも、必要なのかな。たぶん、そうした柔らかい関係の中から、もっと様々なネットワークというものが生まれてくるのかな、と委員のお話を聞きながら感じた。

#### ●委員

追加すると、すでにそういう事業が始まっていて図書館の方も知っていると思うが、豊中はおへソになる所がなくて、千里はちょっと別で、阪急沿線の服部、庄内、そしてついこの間には豊中駅前バルが行われ、「岡町桜バル」も予定されている。商工会議所をまきこんで、地域の商店街をまきこんでやっているそういうところに、もっとそれが分かった時点で図書館として図書館的な何か連携をできないかなというように、もっと好奇心に満ちた気持ちで、すごくエネルギーをさかないといけないというようなことではなくて、もっと面白がって「図書館も何か出来ないかな」というぐらいの感覚で、これからやっていかないといけないと思う。街に出る時に、図書館員としての袴を着て行ってはまずいのではないかなと思う。そういう風に、市民と連携するということは、そういう視点をすばやくキャッチして、どう動くかという辺りがすごく大事だろうと思う。それからもうひとつ、私自身が市民活動をしているこ

ともあるが、「ビブリオバトル」などが若い人達を中心に、けっこう地域に広がっていて、豊中でももうすでに何か所かでそういう実験的なことが行われている。それはまさに本を題材にして、そこに若い人たちがどの本が面白いかというのを議論しながらやっていく、そういう本当に図書館にぴったりの動きなので、そういう動きをやはりもっと早くキャッチして、図書館がそこにどうコミットするかというのが、ものすごく大事なのではないかなと思う。そういう動きがちょっと遅いかなという風に思う。

## ●委員

中学校長会を代表して出ているが、今お話があった「ビブリオバトル」に、実はこの2人がつい最近駆り出された。読書振興課を中心にされた催しの「子ども読書活動フォーラム」第1部がビブリオバトルで、おじさん・おばさんのバトラーが、小学校中学年から高学年を中心にした子ども達とその保護者の前で本を紹介するという事をさせていただいた。2部は作家の令丈先生と石崎先生が来られて、あのトークショーはとても面白かったのだが、ああいう事をやっぱり広めていく必要があるのかなという風に思っている。学校でもなかなかビブリオバトルというところまではいかないで、なにかそういう仕掛けができればいいかなあという風に思って、自分が経験してみるのが一番かなと思って出させていただいた。先ほど地域との関わりという話が出ていたが、公民分館の立場ではないのにこんなことを言ったら怒られるかもしれないが、豊中市のひとつの特徴として、小学校区に一つ公民分館が必ずあるということ、これがやはり地域の一つの核になっている、地域活動の核になっているのかなというふうに感じている。中学校には、いくつかの小学校から子どもたちが上がってくる。ただ小学校の場合は、本当に小学校区に一つ公民分館がある。これは他ではなかなかない事で、ここをひとつ地域との連携の中で、なんとかできないかなというふうに考えたことはひとつ大事な視点かなという風に思っている。公民分館でいろいろな活動をされているところへ、先ほどの話と同じような形でできるかどうか分からないが、そういう中へ入って行って仕掛けをするということは、そんなに手間がかかることではないのではないかなと感じた。豊中の特徴の一つとして公民分館を挙げてつながりを考えてみる指摘はいいかなと思う。それから学校図書館との連携の中で、学校図書館には学校図書館の役割があるということ、これはまさにそうだと私も思っている。学習指導要領の改訂等もあって、かつて総合的な学習の時間が入ってきた時には、時間数も非常に多く、その時間を活用して調べ学習をするようなことが、わりとゆとりを持ってできたが、徐々に総合的な学習の時間の時間数が削られていって、教科の内容量が増えてくる中で、なかなか総合的な学習の時間を使うとか、教科の中で調べ学習をするというのが、非常に中学校で難しくなっているという現状がある。こういう中で、自ら課題を見つけてその課題を解決するというような子ども達を育てられているのか、という反省をしながら、今これを読んでいる。やはりもう一度、学校は学校で図書館をどんなふうに活用していくのかというところを、どんな風に教育課程の中に組み込んでいけるのかということ、それはひとつやっぱり豊中市の図書館全体が利用率が増えたり、いろいろなかたちの活用が増えたりということの、一つのベースになっていくかなと思うので、そのへんは、やはり学校としてなんとかしていく必要があるのではないかなと感じた。

## ●委員長

ありがとうございました。すると公民分館は残しておいた方がよさそうですね。

●委員

文化部をぬいて公民分館など、としたらどうでしょう。

●委員

そうですね、文化部と限定しなくていい。公民分館は載せていただいてもいいと思う。

●委員長

先ほどご指摘のところは、「文化部」は抜いて「公民分館など」とした方が伝わりやすいということで、表現を修正したいと思う。

●委員

小学校の校長会から出ているが、中学校と小学校では図書館の活用において、やはり少し違うのかなと思う。学校図書館の活用は課題だろうが、もうちょっと小学校では頑張っている。やっぱり、教育課程に寄与する図書館であるということで、できるだけ図書館を使った授業をしましょうということは、十分かどうかは別として、うたうことができているし、意識の高い先生達はかなり使っている。たまたま今日も本校に府から参観者があったが、その時にも、豊中全体としてやはり学校図書館について、とてもきっちりされていますね、ということとか、やはり予算の面とかでも、かなりしっかりつけていただいている。その分やっぱり十分学校は使っていかななくてはいけないなという風に常々思っている。そこで、きちんと書いていただいているなどと思うのは、学校でそれなりにしっかり力をつけたら、子ども達が将来戻ってくるよということ。私達は、将来にわたって学習できる、困った事や知りたい事があった時に図書館に行ける、そんな子ども達を育てたいなと思って取り組んでいる。その事もきちんと書いていただいているので、それも良かったと思っている。先ほどから話題になっている地域の団体との連携ということについては、どこも限定することはないと思うが、もっと発展していくためにはそういうこともあっていいと思う。うちの地域の例でいうと、天竺川の原っぱで野外活動みたいな事を、時々原っぱに子ども達を集めて遊ぶというような時がある。服部図書館も近いので、そこと何か連携したような、それこそ何かコラボレーションした催しができれば、「今日は図書館も来るよ！」というような青空図書館みたいなこととか、何かそんな楽しい夢みたいなことを、一緒に考えながらすすめていくということがあっていいのかなと思う。また、図書館の職員が学校に来て、1日学校の図書館を体験するというのも、今年試みておられるが、それはまた今後継続してやっていく事で、学校と公共との連携がまた違った形で進めることができるのかなと今思っている。「とよなかブックプラネット事業」のしくみも始まったところなので、これからまたいろいろ発展的に進めていけるのではないかなと思っている。

●委員

私は幼稚園の園長会の代表で出ているが、幼稚園は学校教育のいちばん初めのところ、幼児教育はそこに位置づけられる。子どもという表現の中には、私達の乳幼児の部分が入っているだろうと解釈して読めばそうなのだが、「学びのまちづくり」の一番最初のところ、学校教育に至るまでの子ども達も、やがてその図書館に向かうという、そこらへんのニュアンスがどこかの中に入っていっただらいいなと思った。これだけを読んでいると、字が読めて自分で調べる事が出来て、そこからの話になっているように

読めてしまうので、そうではなくて、豊中市はもう本当に生まれた時から、小さい時から何かの形で育まれたことが、やがて図書館にも向かっていくというようなところ、上手く言えないが、本当におぎゃーと生まれた時から生涯学習が始まっているという、そういう風なニュアンスになればいいという感想を持った。

#### ●委員長

そうですね、公共図書館と学校図書館の連携ということが最初に頭にあったもので、おっしゃる視点については、確かに「学び」は決して小学校に入ってから始まるのではなくて、本当に赤ちゃんの時お母さんに読み聞かせしてもらった、そのお母さんの声を通して、というようなことからたぶんスタートしているのだろう。ブックスタートはそういった意味もありますね。ちょっとそのへんについては、もう少しきちんと書き込めるようなかたちで工夫をしてみたいと思う。大変ありがたいご指摘をいただいた。

#### ●委員

起草委員といいながら、起草の段階で十分に意見を言えず申し訳なかったが、もちろん読ませていただいてこれまで意見が出たとおりだと思うが、8の「図書館の働きをいかに伝えるか」で、何か引っかかっていた。さっき委員が言われたことを聞いていて、最初はそう読まなかったが、そういう読み方をするとそう読めるなど思ったのは、「我が豊中市立の図書館のこの素晴らしさを市民に知らせよう」という感じになっているように思えた。そうではなくて、利用者の方が勝手に「素晴らしい」と言ってくれるシステムを作った方がいいと思う。あまり利用者の声というのが書いていないのではないかなど。「高い評価を得ている」と書いてあるが、高い評価を得ていることを他の市民に伝えないといけないなあという気がした。先ほども図書館員が外に出て行って、という話があったが、この伝え方については、少し抽象的なことでも、図書館員が伝えるのではなくて、図書館員が利用者の声を集めて例えば発行するとか、そんな伝え方や方法を考えてはどうか。facebookとかtwitterとか、ああいったもので拡散すると、たいへんいろいろな方が見てくれるそうだが、図書館員が「うちの図書館は素晴らしいで」と拡散しても、あまり見ないのではないか。この前行ってみて、こんなことが分かって良かったというような声、図書館側が思いもしないことに市民の方は良かったと思っておられるかもしれない。そう思うと、そういうことをもうちょっと書いた方が良かったかなと今思っている。委員の意見を聞きながら読んでみると、そんな風に読めるなど思った。

#### ●委員長

そうですね、図書館の評価とか外部評価というところ、いかに私達が頑張っているかということや、いかに分かってもらえるか、理解してもらえるかというところがやっぱり強かったような部分がある。自己評価、自己点検といいながら、自己評価の結果を伝えるということに留まっています。でも本当は、「おいしかったよ」と言ってくれている口コミをいかに広めていくかが大事だと思う。ラーメン屋さんが「うちのラーメン美味しいで」と言っても、これは全然宣伝にならないわけで、やっぱりほんとに美味しいラーメンを出している自信があるのだったら、「美味かったで、あそこのスープは」と言っている声があるはずなので。だから、それがばらばらの声でなくて、本当にお褒めの言葉というのは全然伝わりにくいも

のですからね。クレームのような悪い評判は、必ず友達に言う、家族に言うという具合に伝わっていくが、「美味かったね」というのは、よほどの感動がないと伝わっていかない。今、委員が言われたように、本当に私達が伝えなければいけないのは、図書館員が「美味しいスープやで」と言う事ではなくて、「あそこのラーメンのスープは最高やったなあ」「あそこのチャーシューは美味かった」というお客さんの声があるということ、きちんとひろいあげて、それを皆さんにきちんと納得してもらえるように伝えていくことの方がよほど意味のあることだろう。そこは、今のご指摘をふまえて工夫したい部分だと思う。

#### ●委員

先日地下鉄に乗っていて、よその方が喋っているのが聞こえてきたのだが、その方はどうも大学図書館へ行って、利用したいと言って断られたと怒っておられたのだが、まあおそらくその方は学生でも職員でもなかったのでしょうか。その方は公共図書館に行けば良かったのでしょうか、そういう利用の事についても、あまりご存じない方がおられるのではないかという気がする。まあこういう経験があったので、ちょっとお伝えさせていただこうと思った。

#### ●委員長

図書館で仕事をしていると、自分達の仕事がある意味当たり前のことのように思ってしまうところが結構あるのだと思う。「こんなことは利用者の方はご存じのはずだ」というような思い込みで、いろいろな案内をしてしまう部分も、結構あるのではないかと思う。やはり、決して皆が図書館の事や図書館の仕事を知っているわけではない、ということ、肝に銘じながら、仕事していかなければいけないなど思う。特に頑張って仕事している職員ほど、そうした意味ではついつい自分のやっている仕事というのを、何か一定の前提の上で捉えてしまいがちになるので、今、委員が言われたようなことで、本当に一人ひとりの利用者に、やはり初心に帰ったかたちで接していくということも非常に大切なことだと思う。

#### ●委員

ちょっと教えてほしいのだが、市役所の第2庁舎のロビーでいろいろな行事をやっているが、図書館としても、そういうところで展示とかそういったことをしたことはあるのか。

#### ●事務局

図書館としては、北摂アーカイブスの展示とか、ブックスタートについても写真展のようなかたちで、もともと対象者が限定されているようなものを、巾広い市民の方に見ていただいてPRするというような形で行っている。図書館にとってのプラスのお声という話があったが、そんな時にはアンケートを取らせていただくと、「こういった取組みいいですね」というようなお声をすごくいただくので、先ほどの話とつながるかなあと感じている。実施するたびに、そういうふうなお声というのはいただけるのかなと思っている。

図書館も評価の視点からは、本当にPRの取組みの必要性についてご指摘を受けているので、今職員皆で、やはり先ほどのクレームだけではなくて、こういうことをしてこんなことが良かったというようなご指摘もいただいたりしているので、そういうお声をなるべく皆で拾って、共有してためていこうと

いう意識を持っている。

### ●委員

本校では、蛭池図書館に生徒の作品の読書郵便を展示してもらい、野畑図書館でも以前他校に勤務していた時に展示してもらった。そういうことも一つ有効かと思う。図書館に来られる方は、元々本を求めて来ておられるので、その方達が中学生や小学生の作品を見てくださるのは、とてもありがたいし、本に興味のある方だからなおさらしっかり見ていただけるのだろう。一方、図書館にあまり縁のない人に働きかけようと思うと、人が必ず来るところ、たとえば市役所も第2庁舎のロビーというのは効果的かどうか分からないが、第一庁舎や市立豊中病院などでは効果がありそうに思う。先日も病院に行った時ぼうっと待っていて、本を持って来ればよかったなと思った。そういう時に、そういう展示物があれば見たりできればいいし、こんな本面白そうだと思ったら、図書館にまた来てくれるかなあと、そんなふうに思った。もちろん、図書館で図書に関する催しをするというのは有効だと思うが、あまり図書館に縁のない人も集まるところや必ず来るようなところ、市役所であったり病院であったり、他にもあるかもしれないが、そういったところでそのような広報活動を試みることも有効ではないか。だから無理して出かけていく必要はないが、そういうところで何かしていくようなことならば、そんなに手間はかからないのではないかと、そんなことを考えた。

### ●委員長

ここまで議題1について、いろいろご意見をいただいた。ただ先ほど文章を示したばかりでもあり、きちんと読んでいただければ、さらにご意見があるかもしれない。皆様方には再度、お手元の案をお読みいただけますか。その中で、さらに加筆・修正すべきところ、もう少し表現を変えた方がいいというようなことをお気づきになると思う。その後、もう一度集約したいと思う。あまり時間的余裕がないなかで恐縮だが、今週いっぱいご検討いただいて、2月3日までに事務局あてにお声を届けていただきたい。何もなければそれで結構ですし、お気づきの点があればお手数ですが、ご意見をお聞かせください。そこでお寄せいただいたものについて、事務局のほうで整理をして、起草委員の方々には再度フィードバックしたい。起草委員の方々には、それぞれの委員の皆さまのご意見をふまえて、再度ご意見をいただいて、それ以降の作業については、委員長に一任をいただけたらと思う。最終的な文章の調整等につきましては、私と事務局のほうで最終的に責任をもって調整させていただきたい。恐縮ですが、是非ご意見、お気づきになった点などを2月3日までにお寄せください。

議題の1のところについては以上だが、議題2その他について、事務局から報告をどうぞ。

### ●事務局

報告を三つさせていただきたい。1月18日土曜日の午後、子ども読書活動の啓発ということで「子ども読書活動フォーラム」を開催させていただいた。ビブリオバトルと、子ども達に人気のある『黒魔女さん』シリーズの石崎先生、『若おかみは小学生』シリーズの令丈先生をお招きしてトークライブを行い、児童生徒及び保護者、計366名の参加があった。

二つ目は、昨年補助金で図書館の全蔵書にICタグ貼付を行ったが、2月から3月にかけて、図書館システムのリプレイスとあわせて、資料点検でICタグのチェックも行う予定である。2月24日の月

曜日から3月6日の木曜日にかけて、図書館全館休館をして、システムリプレイス及び資料点検・ICタグ貼付の点検を行う予定であり、よろしくお願ひしたい。

もう一つのご報告は、映画「じんじん」についてである。お手元に、チラシを配布させていただいたが、これは北海道の町が絵本の読み聞かせを通じて町づくりを行っていて、親子、家族、地域の人たちとの絆が描かれている。ご承知のように、豊中市では40年以上前から、多くの市民がそれぞれ、あるいは図書館と協働で子ども読書活動の推進に取り組んでいる。また、先ほども話題になったように、公民館活動が全国的にも高い評価を受けている。これらの活動と映画「じんじん」にオーバーラップするところが多いということで、様々なNPO、市民団体と、豊中市教育委員会が構成員となって、映画「じんじん」実行委員会を立ち上げて、豊中市内3か所で上映会を行う予定で、関心のある方はお越しいただきたい。

また、「岡町桜バル」について、図書館有志による動きがあるので、少しご報告をさせていただきたい。

委員さんからご紹介のあった「岡町桜バル」では、「ブック交換」で参加しようと計画している。「ブック交換」は、2010年に始まって、全国的に展開中で、テーマにそった自分のイチオシ本を参加者が持ち寄って、自己紹介を兼ねた本の紹介の後、参加者同士本を交換するというイベントで、私も何度かしたことがあるが、自分が持って行った本の想いを語り、それについて聞いてくれた人がいろいろ反応してくれて、その本を読みたいという交流が生まれる楽しい催しで、それをしたいと思っている。たまたま市役所に通う商店街でバルのポスターを見かけて、是非これでやってみようと思いつき、今朝実行委員さんに連絡をしたところである。商店街さんとはレシート福引券などこれまでタイアップしたつながりの関係もあって、担当者につながりもあったので連絡をした。是非図書館にも声をかけようと思っていたと言っていた。できれば商店街の空き店舗でやらせていただきたかったが、今回は空き店舗があまりないということで一番商店街のはしっこにある岡町図書館ということで、岡町図書館の集会室でブック交換をしてみようと計画している。3月29日当日に向けて打ち合わせを進めていきたい。

その他の動きも一緒にご報告させていただきたいと思うが、服部の銀行に北摂アーカイブスの写真を貸出した。銀行に来られた方がご覧になって、こんな写真があるのかと、図書館に他の作品も見に来られたり、図書館ホームページで北摂アーカイブスを見ていただけるが、そのアクセス数が増えたというような動きが出ている。それからもう一つ、最近の映画のポスターでは、通常の映画ポスターと大阪府など公共の取組みをタイアップしたポスターも見られることがあると思う。今だと「大統領の執事の涙」少し前だと「舟を編む」という映画と大阪府立図書館が「この機会に図書館に行きましょう」というタイアップしたポスターをつくったが、それと同様のことを豊中でもしようじゃないか、他部局から話があり、それに向けて動いている。

## ●委員

今の件で言わせていただくが、「岡町桜バル」のことは、2月10日までに内容が決まるから、図書館も参加する方法を考えたらどうですかと図書館に伝えたはずなのに、今の話では職員が道を歩いている、たまたまポスターを見て、面白いなと思って動き出したという。それはちょっと違うのではないかなと思う。そうやって図書館がなにか連携できるようなことないかなって、市民として言っているのに、職員がたまたま歩いて気づいて取り組むことになったという。私はそこが遅いと言っている。そういうふ



うに外部からどうですかと情報があつたら、それをキャッチした人がこれはどうか、いいチャンスじゃないかというのが、町に出ていくということなのに。そういうところに憤りを感じる。

●委員長

委員のご意見の趣旨は是非受けとめておいてください。他にご意見が特になければ、本日はどうもありがとうございました。委員の皆様には、もう少しご協力をいただきますようお願いいたします。これをもって第6回豊中市立図書館協議会を閉会する。